

ダイワ米国担保付貸付債権ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

<2676> <2677>

単位型投信／海外／その他資産 (バンクローン)

満期償還 2019年2月19日償還

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、外国投資信託を通じて米ドル建ての担保付貸付債権 (バンクローン) 等に投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしており、信託期間中につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、謹んで運用状況と償還の内容をお知らせいたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

(為替ヘッジあり)

償還時	基準価額	8,859円63銭
	純資産総額	3,703百万円
償還期	騰落率	△2.4%

(為替ヘッジなし)

償還時	基準価額	9,705円18銭
	純資産総額	851百万円
償還期	騰落率	△1.9%

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
 0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
 お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書 (全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書 (全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
 ユニバーサルデザインフォント
 を採用しています。

「運用報告書 (全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

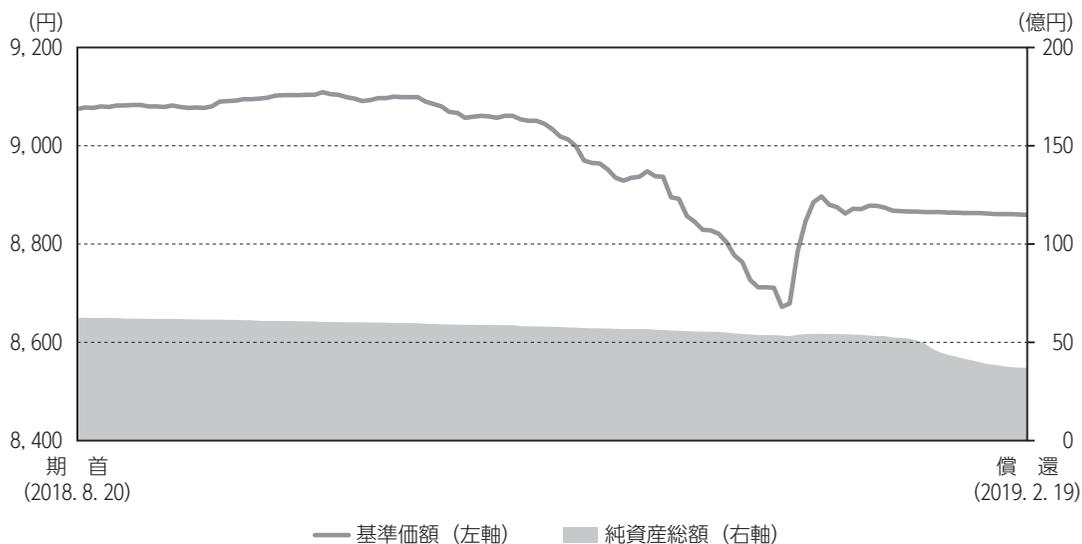
上記のURLにアクセス → ページ下方の「償還済みファンド (運用報告書)」を選択 → リストから当ファンドの「一覧」をクリック → 目的の運用報告書 (全体版) を選択

為替ヘッジあり



運用経過

基準価額等の推移について



■ 基準価額・騰落率

期首：9,075円

償還時：8,859円63銭

騰落率：△2.4%

■ 基準価額の主な変動要因

安定運用に移行した2019年1月下旬までの期間、バンクローン（貸付債権）市場は当作成期首比でおおむね横ばいの動きとなりました。一方、為替ヘッジに係るコストなどが重しとなり、基準価額は下落しました。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 8. 21～2019. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	52円	0.582%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は8,974円です。
（投 信 会 社）	(17)	(0.189)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(34)	(0.379)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.001	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	52	0.583	

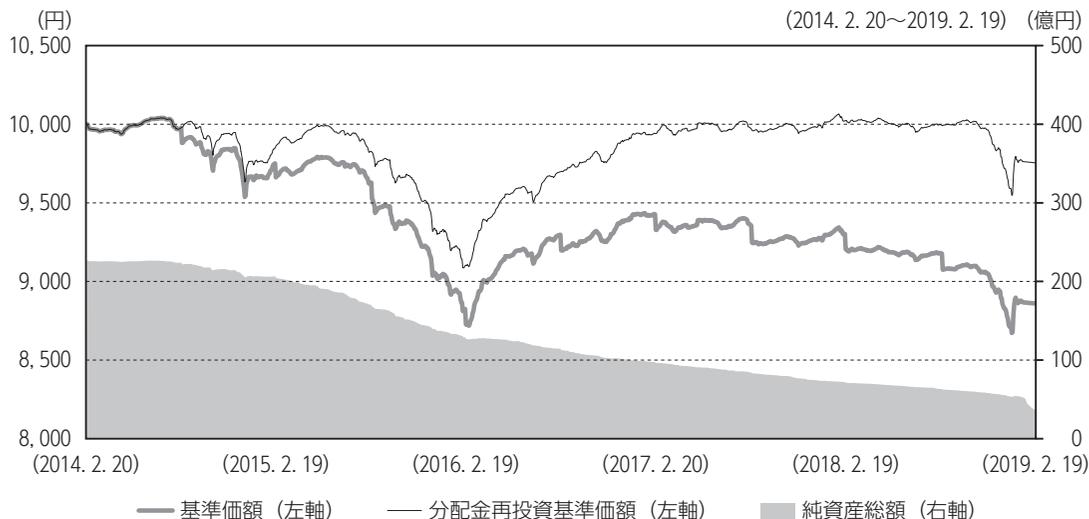
(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

	2014年2月20日 設定	2015年2月19日 決算日	2016年2月19日 決算日	2017年2月20日 決算日	2018年2月19日 決算日	2019年2月19日 償還時
基準価額 (円)	10,000	9,662	8,727	9,328	9,205	8,859.63
期間分配金合計（税込み） (円)	—	200	200	200	200	100
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△1.4	△7.7	9.2	0.8	△2.7
純資産総額 (百万円)	22,656	20,452	12,711	9,626	7,117	3,703

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

設定以来の投資環境について

（2014. 2. 20 ~ 2019. 2. 19）

■ 米国バンクローン市況

米国バンクローン市場は上昇しました。

当ファンド設定時より2014年中頃までは、F R B（米国連邦準備制度理事会）が低金利政策の解除に慎重姿勢を示したことなどからバンクローン市場は底堅く推移しましたが、2014年後半の原油価格の急落を受けて、年末にかけてやや調整しました。2015年は、前半は良好な米国経済指標などを背景に堅調に推移しましたが、後半は原油価格の下落継続や中国経済への懸念の高まりなどを背景に、軟調な値動きとなりました。2016年以降は、英国の国民投票でE U（欧州連合）離脱派が勝利したことや米中貿易摩擦への懸念の高まりが下落圧力となりましたが、米国の金融政策が正常化に向かう中で、金利上昇に強いバンクローンの商品特性や相対的に高い利回りを求める投資需要に支えられ、おおむね堅調に推移しました。2018年10月以降は、世界経済や米中関係に対する懸念の高まりを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、クレジット市場全般に売り圧力が強まる中、バンクローン市場も12月末にかけて急落する展開となりました。しかし2019年に入ると、投資家のリスク回避姿勢の後退とともに株式市場全体が持ち直す中で、バンクローン市場も大きく反発しました。

■ 短期金利市況

当ファンドの設定以降、日銀は大規模な量的・質的金融緩和を継続しました。2016年1月にマイナス金利の導入、9月には「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定し、日本の短期金利は低位で推移しました。一方、米国では、F R B（米国連邦準備制度理事会）が政策金利を0.25%ポイントずつ、合計9回引き上げ、政策金利の誘導目標レンジは2.25%~2.50%となりました。

信託期間中の運用方針

■当ファンド

当ファンドは、G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスへの投資割合を高位に保つことによって、米ドル建てのバンクローン等に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

■G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラス

将来的に格上げが見込めるファンダメンタルズが改善基調にある銘柄やリスク対比で魅力的な銘柄の選定を行ってまいります。さらに、クレジット（企業の信用力）の劣化に迅速に対応することでパフォーマンスの向上に努める方針です。また、為替変動リスクを低減するため、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

信託期間中のポートフォリオについて

(2014. 2. 20 ~ 2019. 2. 19)

■当ファンド

当ファンドは、G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスとダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、信託期間を通じてG I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスへの投資割合を高位に維持しました。

■G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラス

米ドル建ての担保付バンクローン等に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしました。また、為替変動リスクを低減するため、米ドル売り／日本円買いの為替ヘッジを行いました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

1万口当り、第1期～第9期各100円の収益分配を行いました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

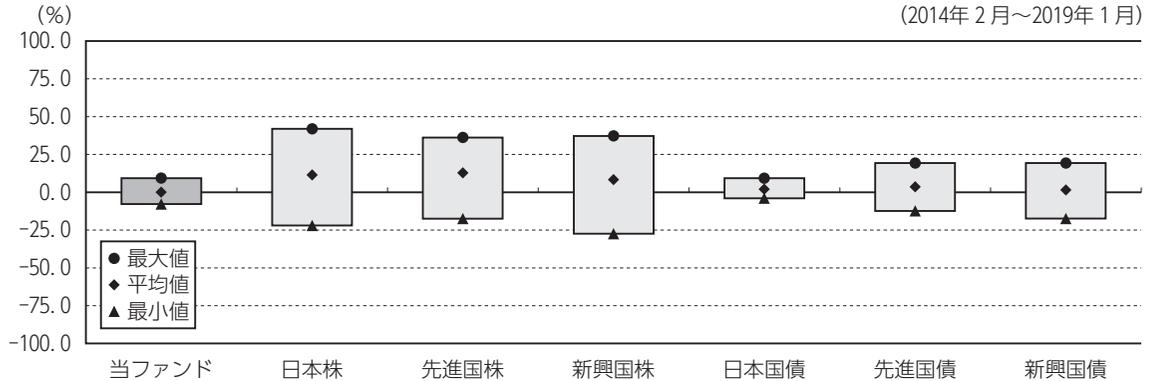


当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／海外／その他資産（バンクローン）	
信託期間	5年間（2014年2月20日～2019年2月19日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ．ケイマン籍の外国投資信託「G I M トラスト2－シニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラス」の受益証券（円建） ロ．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	①主として、G I M トラスト2－シニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスの受益証券への投資を通じて、米ドル建ての担保付貸付債権（バンクローン）等に投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ②当ファンドは、G I M トラスト2－シニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスとダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、G I M トラスト2－シニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスへの投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③G I M トラスト2－シニア・セキュアード・ローン・ファンド J P Yクラスでは、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	
マザーファンドの運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA－2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	9.3	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
平均値	0.0	11.5	12.8	8.3	2.0	3.6	1.5
最小値	△ 7.8	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI 国債

先進国債……………FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

純資産等

項 目	償 還 時
	2019年2月19日
純資産総額	3,703,586,196円
受益権総口数	4,180,293,539口
1万口当り基準価額	8,859円63銭

* 当期中における解約元本額は2,698,515,174円です。

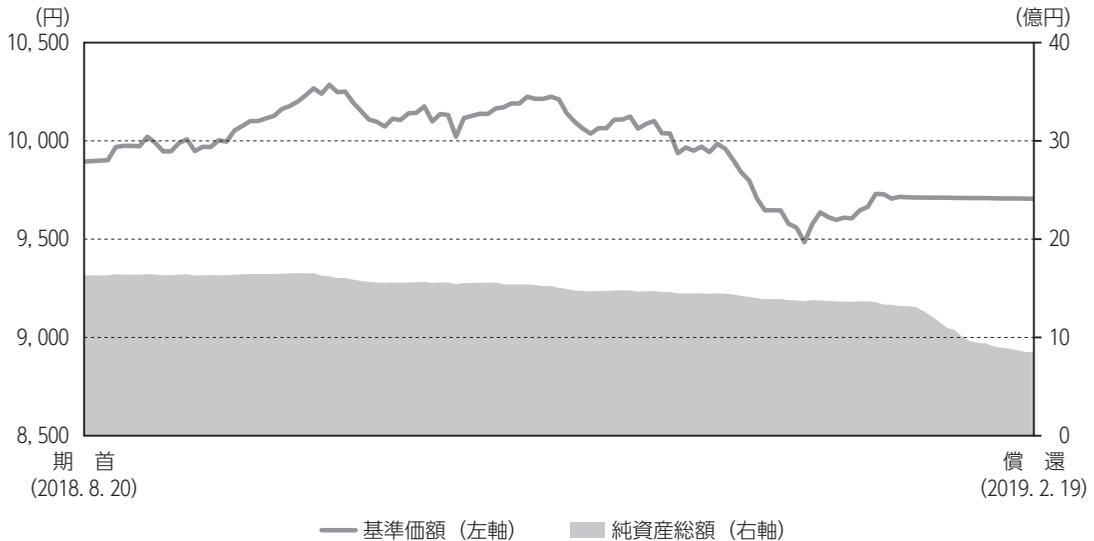
* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

為替ヘッジなし



運用経過

基準価額等の推移について



■ 基準価額・騰落率

期首：9,895円
 償還時：9,705円18銭
 騰落率：△1.9%

■ 基準価額の主な変動要因

安定運用に移行した2019年1月下旬までの期間、バンクローン（貸付債権）市場は当作成期首比でおおむね横ばいの動きとなりました。一方、米ドルが対円で小幅に下落したことから、基準価額は下落しました。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 8. 21～2019. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	58円	0.582%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,955円です。
（投 信 会 社）	(19)	(0.189)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(38)	(0.379)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.001	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	58	0.583	

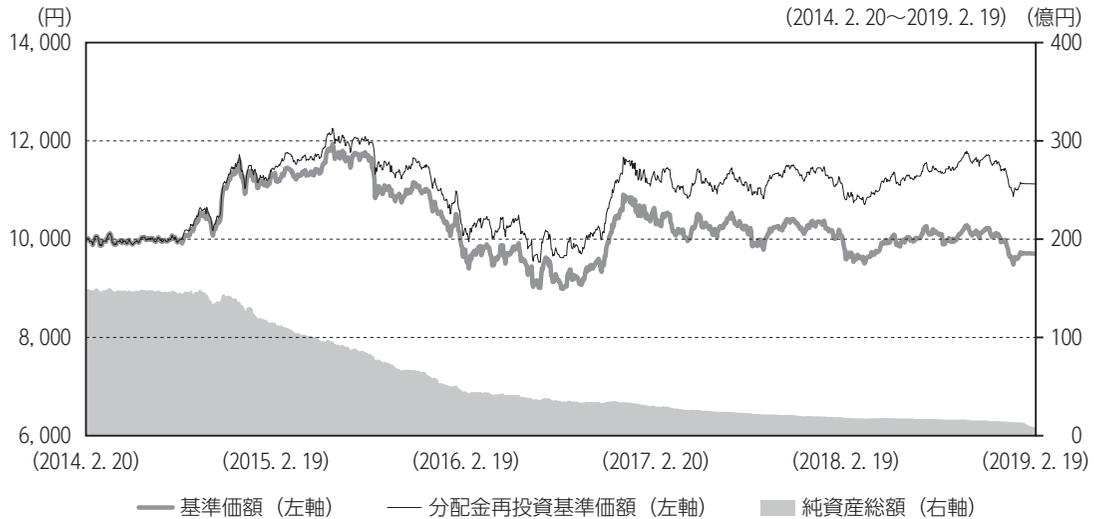
(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

	2014年2月20日 設定	2015年2月19日 決算日	2016年2月19日 決算日	2017年2月20日 決算日	2018年2月19日 決算日	2019年2月19日 償還時
基準価額 (円)	10,000	11,185	9,617	10,304	9,592	9,705.18
期間分配金合計（税込み） (円)	—	290	315	270	345	175
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	14.9	△11.5	10.1	△3.6	3.0
純資産総額 (百万円)	14,901	11,315	4,463	2,958	1,782	851

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。

設定以来の投資環境について

（2014. 2. 20 ~ 2019. 2. 19）

■ 米国バンクローン市況

米国バンクローン市場は上昇しました。

当ファンド設定時より2014年中頃までは、F R B（米国連邦準備制度理事会）が低金利政策の解除に慎重姿勢を示したことなどからバンクローン市場は底堅く推移しましたが、2014年後半の原油価格の急落を受けて、年末にかけてやや調整しました。2015年は、前半は良好な米国経済指標などを背景に堅調に推移しましたが、後半は原油価格の下落継続や中国経済への懸念の高まりなどを背景に、軟調な値動きとなりました。2016年以降は、英国の国民投票でE U（欧州連合）離脱派が勝利したことや米中貿易摩擦への懸念の高まりが下落圧力となりましたが、米国の金融政策が正常化に向かう中で、金利上昇に強いバンクローンの商品特性や相対的に高い利回りを求める投資需要に支えられ、おおむね堅調に推移しました。2018年10月以降は、世界経済や米中関係に対する懸念の高まりを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、クレジット市場全般に売り圧力が強まる中、バンクローン市場も12月末にかけて急落する展開となりました。しかし2019年に入ると、投資家のリスク回避姿勢の後退とともに株式市場全体が持ち直す中で、バンクローン市場も大きく反発しました。

■ 為替相場

米ドルは対円で上昇しました。

当ファンド設定以降しばらくの間、米ドル円は狭いレンジ内での小動きに終始していましたが、2014年央から年末にかけて、良好な米国経済指標や堅調な日米企業決算、日銀による予想外の追加緩和などを受けて、急速に円安が進行しました。その後2015年は、中国経済に対する懸念の台頭などから、上値の重い展開となりました。2016年に入ると、欧州金融機関への信用不安や英国国民投票でのE U（欧州連合）離脱派の勝利などを背景に、投資家のリスク回避姿勢が高まり、円高基調が継続しました。しかし、2016年11月に米国大統領選挙でトランプ氏が勝利すると、再度急速に円安が進行しました。2017年以降は、トランプ大統領の政策に対する期待や堅調な米国経済指標、米国金利の上昇に伴う日米金利差の拡大などが相場の下支えとなる一方で、北朝鮮を取り巻く地政学リスクの高まりや米中貿易摩擦問題が重しとなり、米ドル円は一進一退の推移となりました。2018年末から2019年の初めにかけては、世界経済に対する懸念の高まりや流動性の低下を背景に、一時大幅に円高が進行しました。しかしその後は、投資家心理が落ち着きを取り戻す中で、ファンドの償還日に向けて反発基調となりました。

信託期間中の運用方針

当ファンド

当ファンドは、G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスへの投資割合を高位に保つことによって、米ドル建ての担保付バンクローン等に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラス

将来的に格上げが見込めるファンダメンタルズが改善基調にある銘柄やリスク対比で魅力的な銘柄の選定を行ってまいります。さらに、クレジット（企業の信用力）の劣化に迅速に対応することでパフォーマンスの向上に努める方針です。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

信託期間中のポートフォリオについて

(2014. 2. 20 ~ 2019. 2. 19)

当ファンド

当ファンドは、G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスとダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、信託期間を通じてG I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスへの投資割合を高位に維持しました。

G I M トラスト2ーシニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラス

米ドル建ての担保付バンクローン等に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしました。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

1万口当り、第1期100円、第2期190円、第3期195円、第4期120円、第5期100円、第6期および第7期各170円、第8期および第9期各175円の収益分配を行いました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

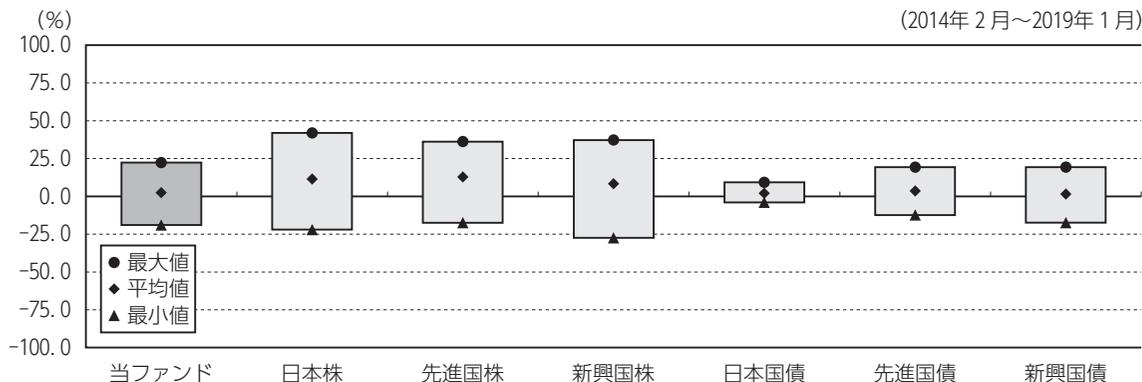


当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／海外／その他資産（バンクローン）	
信託期間	5年間（2014年2月20日～2019年2月19日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. ケイマン籍の外国投資信託「GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラス」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	①主として、GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスの受益証券への投資を通じて、米ドル建ての担保付貸付債権（バンクローン）等に投資することにより、安定的なインカム収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ②当ファンドは、GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスとダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスへの投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③GIM トラスト2-シニア・セキュアード・ローン・ファンド USDクラスでは、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	22.3	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
平均値	2.4	11.5	12.8	8.3	2.0	3.6	1.5
最小値	△ 19.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI 国債

先進国債……………FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

純資産等

項 目	償 還 時
	2019年2月19日
純資産総額	851,310,076円
受益権総口数	877,170,451口
1万口当り基準価額	9,705円18銭

* 当期中における解約元本額は772,246,774円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。